

厚沢部町役場ヒアリングレポート

訪問日：2016年10月6日

お世話になった人：厚沢部町長 渋田正己 様

厚沢部町 総務政策課 主幹 津野修 様

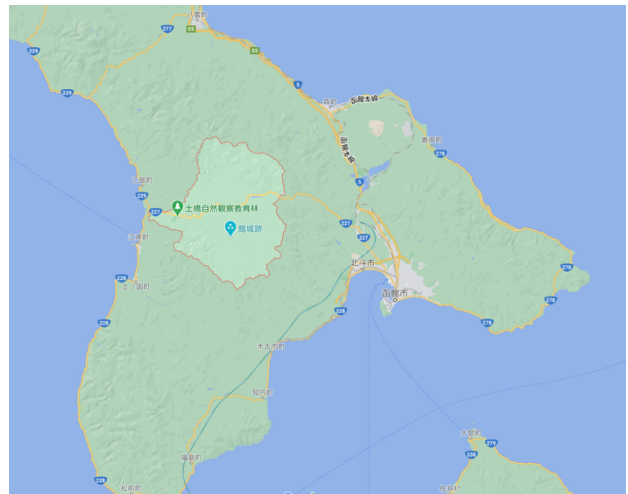
訪問者：山田あすか，金子亜里砂，高瀬敦，古賀誉章，土田寛，小西千秋

■厚沢部町

函館市の西北に位置し、函館市から車で約60分の場所。主な産業は農業と林業で、じゃがいものメークイン発祥の地である。

町の課題として、過疎化、少子化の進行が挙げられている。

6年前から移住・定住に関する取組を行っており、町で「素敵な過疎づくり株式会社」をもっている。また、「コミュニティネット」と連携している。



厚沢部町は北海道の南部。函館市，北斗市の西方に位置する。

■素敵な過疎づくり株式会社の事業

1. 移住・ちょっと暮らし事業

- ・総合窓口（情報発信・相談対応）
- ・ちょっと暮らし用住宅の管理運営
- ・滞在者へのコンシェルジュ業務
- ・ツアーの企画実施
- ・北海道暮らしフェアへの出展

2. 交流事業

・ノートルダム学院小学校修学旅行（主に川下りをする）

- ・各大学のアウトキャンパススタディ
- ・その他体験受け入れ事業

大学生が長期休みを利用して自動車や狩猟の免許合宿で訪れ、アルバイトで農作業をしている。また、海外（カンボジア）からも農業を学びに訪れている人がいる。



厚沢部町の道の駅では購買機能がまちの人にも利用されている。ジャガイモを使った新作クロッケのコンテストを毎年行い，優勝作品を期間限定で販売するというPR活動を行っていた。

3. その他事業

- ・農産品の販売
- ・物販、PRイベントへの参加
- ・出会い・賑わい・元気づくり事業（街コン）
- ・地域おこし協力隊のコーディネート
- ・その他、厚沢部町から委託を受けた事務事業の執行

■ちょっと暮らしナビ（移住交流専用ホームページ）

- ・ちょっと暮らしの案内
- ・町内の新着情報、メールマガジンの配信
- ・町内紹介動画、写真

■ちょっと暮らし事業

厚沢部建設協会が地域住宅モデル普及推進事業の補助により建設し、素敵な過疎づくり株式会社と賃貸契約、基本協定を結んだ。

目的：北海道内への定住・二地域居住促進を図るため、長期滞在型生活体験住宅であり移住者向けモデル住宅を兼ねている。

夏はほぼ満室で、秋から冬は空いている状況。生活体験者の具体的な移住の話はないが、一定期間、そこで生活してもらうだけでも町にとってメリットがある（経済的な効果がある）ため、定住を前提としていない。

■株式会社コミュニティネットとの関係

官民連携の役割として

- ・生涯活躍のまち移住推進センターとの連携及び関連企画の実施
- ・ノウハウを活かしたコンパクトシティ推進に係る調査・検討
- ・相談業務を活かした町へのコンサルティング・地域プロデューサーの配置
- ・自立型サービス付高齢者向け住宅整備

を担う。

2013年にゆいま〜る厚沢部（事例082.、有料老人ホーム）が建設され、周辺の地域資源を活用した事業を展開している。また、これからの展開として、近くの温泉地（俄虫温泉、にわかむしおんせん）を活用した事業を構想している。

■今後考えている取り組み

- ・町内に学習塾がないため、子どもたちが進学をにらむと函館市まで行かないといけない。その影響で早い時期（高校）から地元を離れてしまうことにも繋がっているため、その

ニーズに応えられる取組を行いたい

- ・ それぞれの地域で介護学校を行い、ゆいま〜るなどを実習場にしたい
- ・ 住む場所としての空き家の活用

●感想

観光地として弱い場所だと町長は話していた。しかし、農業、自動車や狩猟の免許合宿などで生活体験をさせたりしていることなど、地域資源を最大限に利用しているように思える。他の視察した場所と比べると官民連携が最も強く、日本版 CCRC 事業構想を国が出す前から取組を行っているため、事業としては他の地域よりも進んでいるように感じる。

「観光産業」として来訪者がいないまちでは、どのように町の特徴を出していくか（そもそも認知されること）と共に、その場所に来る理由となる理由をつくることが重要であり、定期的に訪れる人たち（当人がリピーターになるのではなく、集団としてリピーターになる）をつくるためには組織としての長期にわたる関連づくりが重要である。

東京電機大学 高瀬, 山田